

第3回 多摩市総合計画審議会会議録（要点録）

■開催日時 令和4年8月25日（木） 午後7時～午後9時

■開催場所 多摩市役所 西会議室棟1階 西第1・2会議室

■出席委員 15名（50音順）

朝日 ちさと会長、宮本 太郎副会長、有賀 敏典委員、岩佐 玲子委員、小笠原 廣樹委員、
尾中 信夫委員、勝田 淳二委員、紀 初子委員、澤登 早苗委員、高木 康裕委員、
春田 祐子委員、福井 博文委員、細野 佳苗委員、松野 茂樹委員、鷺尾 和彦委員

■欠席委員 0名

■事務局

阿部市長、鈴木企画政策部長、小形企画課長、秋葉企画調整担当主査、池田主任
大和主事、満井主事

■傍聴者 3名

■議事日程

開会

- 1 前回要点録の確認
- 2 「（仮称）第六次多摩市総合計画」における基本構想の検討
・審議会委員（学識経験者）からの知見の共有
- 3 その他

閉会

1 開会

出席委員は15名であり、過半数の出席があるため審議会は成立した。

【1 前回要点録の確認】

前回要点録（資料15）の確認を行った。

会 長 事前に送付ご確認いただいた議事録について、予め確認いただいていると思うが、問題ないか。

委 員 前回要点録ではなく、意見分類表について一部表現を修正いただきたい。

事務局 意見分類表を使っての議論は次回審議会になるため、それまでに修正させていただく。前回要点録（資料15）について、修正等なく了承された。

【2 「（仮称）第六次多摩市総合計画」における基本構想の検討】

事務局 まず、資料17の意見分類にあたっての視点について説明させていただく。前回議論の意見を、市民の状態・意識、市民の行動、まちの状態の3つに分けた。合わせて、領域の考え方については、SDGsのウエディングケーキモデルを踏まえながら、整理を試みた。その3軸を踏まえて、前回意見を分類している。

・委員からの知見の共有

委員より説明が行われた。

会 長 質問いただきたいが、本日は時間の関係から、議論を行うのではなく、質問などを中心としていただき、必要に応じて別途事務局まで連絡いただきたい。

委 員 自分たちにできることを挙げていただき参考になった。疑問として、日本における農産物の収穫量が2040年には増加するが2080年には減少するのはどういうことか。

委 員 イメージとしては熱帯地域が北上し、東北地方や北海道など一時的には農産物を作る範囲が広がって生産が増加するが、やがて熱くなりすぎると逆効果となり農作物を作ることが出来なくなるのだと思われる。

委 員 地域や都市レベルの気候変動対策や地球温暖化対策の取組としては、どのようなことがあるか。

委 員 その点が本日の説明では不足していた。例えばコンパクトシティでは人々が自動車を使わずに徒歩や公共交通を利用するため、二酸化炭素が減ると考えられる。

委 員 環境については多摩市でも頑張っており、取り組んでいる人も多いが、「無理なガマンではなく楽しく賢く」が重要であり、ガマンではなく緑を増やすなどのポジティブな取組があると良いと思った。また、行動によってどれだけ温暖化対策効果があるかわかれば良いと思った。

委 員 おっしゃるとおりである。もう少しそういう取組があるか私も調べてみる。

会 長 他に質問がないようなので、以上とする。ありがとうございました。続いて副会長をお願いします。

・副会長からの知見の共有

副会長より説明が行われた。

委員 現状のベッタウン・ニュータウンでは、年齢に関わりなく、地域で積極的に困った人を呼び込んで、仲間づくりや繋がり場の場となるように動いてくれる方がいる。積極的に動く方は素晴らしいが、若い方は今のコロナなどの社会状況の中で気力を失っている人もおり、地域では子ども・高齢者を含めて接点や刺激を持たせたいが、なかなか厳しい現状である。

副会長 他国では、大学生が高齢者の家に下宿し、夕食を一緒に食べる、買い物の手伝いをするなどで下宿費が安くなるという公的な取組もある。また、幼老連携として、子どもには不思議な力があり、地域との関わりに不慣れな老人であっても、子どもが関わると穏やかになるため、多世代間の接点が作れる。

委員 3LDK型社会について、囲炉裏を囲む大部屋の社会というのはどうか。3LDKでは顔が見えないが、一部屋の囲炉裏型としてすべてを一緒に行うというイメージの社会や都市があってもいいかもしれないと思った。

また、ニュータウンの再生としては、空き家や空き店舗が問題だと考えている。藤沢市のケア付き団地の話があったが、今後望ましい施設を作るにあたって、何かをやってみてみたいと思った人が、実際にやることのできる環境づくりが大事だと考える。

副会長 囲炉裏型は壁が全くないのもつらいのではということで、リビング・ベッドルーム・勉強部屋などが双方向的につながっているイメージで、そのように呼んでいた。

空き家は非常に重要で、人口減少の中でマンションは増えており、空き家率はどんどん増えている。今は空き家のオーナーも高齢化し、高齢者や障がいのある方を受け入れても何かあった時に対応できないため貸せないという状況もあり、分け隔てなく貸してくれるオーナーへの支援施策が行われている。先ほどコンパクトシティという話があったが、今はいくつかの集積地を作り、交通手段でつなぐモデルが中心となっており、賃貸でも集積地を目指して支援する方法が1つある。もう一つは、入居者の見守りの仕組み作りが重要であり、高齢者世帯や母子世帯などを入居する際に、誰か話し相手がいるという条件ならば安心して貸しやすくなる。多摩市でもそういう仕組みとして居住支援協議会が動き始めているところである。加えて、地球温暖化対策との関係で、環境性能の高い住宅へ補助を出すことも重要である。

委員 ニュータウン商店街の空き店舗でやってみたいことがあるという人がいたが、家賃が高く、また大家さんの側から減額など対応できないとされて先に進めなかった話もあり、藤沢市ぐるんとびーの事例は勉強したい。そもそも多摩ニュータウンは実験都市であったのだから、「ニュー・ニュータウン」をつくるための取組として、目的にかなったチャレンジには、市やURなどによる支援を積極的に行うべきだと思う。

副会長 藤沢のぐるんとびーと比較しても永山モデルは良いものであると認識しているが、アピールが足りていない。より宣伝することで良い動きにつながると思う。

会長 ありがとうございます。

・委員からの知見の共有

委員より説明が行われた。

委員 バルセロナのコロニーの自治について、その規模や財源や担い手について教えてほしい。

委員 スーパーブロックは1区画当たり、約6,000人の地域住民、約400の事業者が活動する規模だと伺ったことがある。

会長 ありがとうございます。時間の都合もあるため、ここで終了させていただく。聞きたいことなどあれば、事務局に連絡してほしい。

【3 その他】

事務局 次回審議会については9月26日の午後7時からとなる。それ以降については10月に3回会議を行う予定だったが、議会から基本構想の検討について時間をかけた方がいいという意見があったため、もう少し時間をかけて基本構想を練っていきたい。

(今後の日程(案)について、事務局より資料14について説明)

会長 その他、委員から連絡事項等がないようなので、審議会を閉会する。

【閉会】

以上